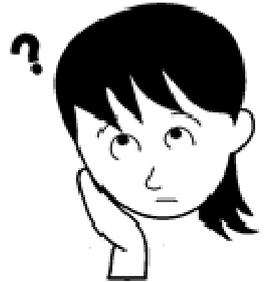


ワークショップ 第2回 原発：ここが知りたいQ&A

「日ごろ思っていること」、「知っているようで知らないこと」、「いまさら聞けないこと」、どんどん聞いちゃいましょう。話し合いましょう。



◆日時 11月23日(土・祝)13:30~16:40

◆場所 東北コミュニティセンター(志木駅南口5分)

テーブル①

知ってかしく「ふつうの暮らし」

助言者：児玉 順一 (医師)

放射能が国の「基準値」以下であっても、決して安心できない私たちの暮らし。でも、心配ばかりしていると疲れてしまいます。

さまざまな汚染物質に囲まれながら、ヒトの生きる力、子どもの成長する力を信じて「生き抜く」。

助言をいただきながら、暮らしのなかで考えていること、工夫していることなどを分け合いましょう。

基調講演

～放射能から生命と健康を守るために～

知ってかしく「ふつうの暮らし」

お話：児玉 順一さん (医師)

◆プログラム◆

13:30~14:10 基調講演

14:10~15:10 ワークショップ①

ワークショップ②

15:10~15:25 (休憩)

15:25~16:25 ワークショップ③

16:25~16:40 まとめの話し合い

テーブル②

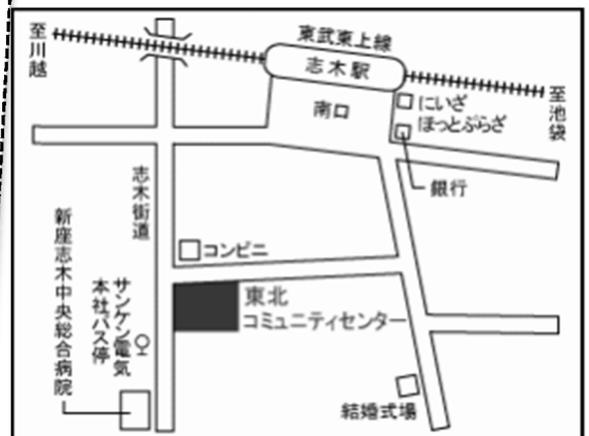
これでいいの？ 給食の放射能検査

助言者：石田 照美(みんなの測定所・ふじみーる)

「子どもたちの内部被ばくは可能な限り低くしたい」。「学校・保育園・幼稚園で給食の放射能検査を改善してほしい」。お母さんたちが声をあげています。

ときがわ町の給食検査に学びながら、行政にお母さんたちの声を反映させるにはどうすればいいか考えます。

東北コミュニティセンター地図



テーブル③

～原発いらない暮らしに向けて～

冬の節電・わたしの工夫

助言者：合田 隆(自然エネルギー&省エネ普及プロモーター)
：水澤 靖子(反原発出前のお店)
：向井 雪子(チェルノブイリ子ども基金・東電株主運動)

今年の夏、ピーク時の電力消費量は2010年に比べて20%も減。出力100万^kワットの原発9基分、900万^kワットを、わたしたちが「発電」したのです。

一方、電力会社は販売量を減らしたくない、原発を再稼働させたいと、「オール電化」の売込みにやっきです。

いま、原発は一基も動いていません。しかし、電力のほとんどを化石燃料に頼っています。そこで、やっぱり節電。

- ★あなたのおうちは何アンペアですか？
- ★電気料金は2段階までにおさまっていますか？
- ★あなたはエアコン派？ 石油ストーブ派？
- ★まだ使える冷蔵庫やテレビ、蛍光灯でも、買い替えたほうが「省エネ」になるの？
- ★オール電化は2酸化炭素を出さないから「地球温暖化防止に役立つ」って、ほんと？

◆保育スペースあります◆

お申し込みは電話で下記に。

090-9203-8683 谷合

048-482-8656 大矢

(保育料1人100円・当日お持ちください)

「孫育て世代」が同じフロアでお相手します。気に入ったおもちゃなどをご持参ください。おやつは市販のお菓子を用意しますので、その他をご希望のかたはご持参を。

未来を担う子どもたち、遠慮しないでご連絡ください。

◆テーブルの分けかたを 変更する場合があります◆

第1回ワークショップを踏まえて、このように3つに分け、時間をずらしました。当日の参加者数、またご要望によって、変更する場合があります。

活発な話し合いの場となるように、参加者の方々とともに、臨機応変に工夫したいと思います。

資料代 300円

助言者のプロフィール

児玉 順一さん ときがわ町で、こだま医院を開業しています。3・11後の臨床事例から内部被ばくに関心を持ち、調査研究を続けてきました。内部被ばくと真剣に向き合うお母さんたちとお話するのが楽しみです。

石田照美さん 富士見市で、「みんなの測定所・ふじみーる」という放射能を測る市民測定所の、代表をしております。

子供たちの未来に、放射能がない社会を引き渡すのが、私たち大人の責任だと思っています。

合田隆さん：一時、東芝で原子力用燃料交換機的设计に携わった経験から、人類と原子力は共存出来ないとの感を持ち、3.11の震災でそれは確信になりました。核のゴミを2.4万年以上も保管・管理

するのは技術的にも財政的にも不可能です。長い戦いになりますが後世代の為に頑張らしましょう。

“We shall overcome!!”

水澤 靖子さん 「原発やめて！」の思いを市民が自分の言葉で伝えていく――。原子力資料情報室の故高木仁三郎さんが開いた連続講座の受講生が「反原発出前のお店」を開店、講師を出前(派遣)しています。

向井 雪子さん 「チェルノブイリ子ども基金」のスタッフとして、被災した子どもたちの救援にかかわってきました。福島原発震災後、「未来の福島こども基金」の設立に参加し、放射能の市民測定所の開設や、被災した子どもたちの保養施設の運営にかかわっています。